

日吉台地下壕保存の会会報

第84号

日吉台地下壕保存の会

第11回戦争遺跡保存 全国シンポジウム 東京大会

今年も盛会裡に終了 国立市一橋大学を会場に

「戦争の記憶と今日の歴史認識」

—東京の戦争遺跡を通して歴史と平和を考える—

地球温暖化が危惧される中、ラニーニャ現象のためか、とりわけ暑かった今年の夏、第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会が国立市一橋大学を会場に、8月18日(土)～20日(月)3日間に渡って開催されました。全国各地で行われてきたこのシンポジウムを「東京大空襲」の惨禍を受けた日本の首都で行う意義は大変大きく、全国各地から350名以上の参加者が集まり、戦争の被害と加害、戦争遺跡の調査、研究、保存運動のあり方を参加者全員真摯に話し合いました。

日吉台地下壕保存の会は戦争遺跡保存全国ネットワーク設立団体のひとつとしてこの大会に当初から参加

してきましたが、今年は本会から18名の参加があり、神奈川県全体でも「陸軍登戸研究所の保存をすすめる川崎市民の会」「貝山地下壕の保存をすすめる会準備会」の皆さんをはじめ40名にのぼる参加者がありました。

会場の一橋大学は戦前は東京高等商業学校、東京商科大学として日本の実業界に幾多の人材を送り出し、戦時中は東京産業大学と改名し、戦後国立一橋大学となりました。戦争中は陸軍電波兵器練習部隊が置かれ、中島飛行機武蔵製作所の疎開施設にもなったところです。大会の中でキャンパスの見学会も行われ、歴史とアカデミズムを感じさせられるレンガ造りの建物が並ぶ中で、有名な兼松講堂が一際目を引きました。

大会第一日目(8月18日)の午前中は全国ネットの会員総会が行われ、文化庁との懇談会の報告など会のこれまでの活動の報告、個人会員を増やす、会費納入など会の組織の間



十菱駿武氏(山梨学院大学)
戦争遺跡保存全国ネットワーク代表

題、次年度以降の活動の方向性など話し合わせ、来年度は愛知県での大会開催を追求することが決められました。今年も本会から全国ネットの運営委員として2名が参加しています

午後は、開会行事の中で来賓の関口国立市長の挨拶の後、「現代日本に於ける戦争の記憶と戦争責任問題」と題して吉田裕（ゆたか）一橋大学大学院教授の基調講演がありました。その後以下4つの報告が行われ、夕方は一橋大学生協の食堂大ホールで全国交流会が行われ、年一回の交歓を新たにしました。



吉田裕 一橋大学大学院教授

<報告>

- ・「戦争遺跡保存運動の到達点と課題」
大日方悦夫（全国ネット運営委員）
- ・「扶桑社版教科書を使っている東京杉並区での取り組み」
鈴木織江（ひらかれた歴史教育の会）
- ・「小笠原・硫黄島の戦争遺跡の実態」安島太佳由（戦跡写真家）
- ・「沖縄陸軍南風原壕群20号の整備と公開」上地克也（南風原町文化センター）

大会第二日目（8月19日）は29本の報告が以下4つの分科会に分かれ行われました。

本会からは第一、第二分科会に報告を行いました。

第一分科会「保存運動の現状と課題」

第二分科会「調査の方法と保存整備の技術」

第三分科会「平和博物館と次世代への継承」

特別分科会「軍都東京の戦争遺跡」

その後の全体集会では各分科会の報告と大会アピールが採択されました。

大会第三日目（8月20日）

軍都東京の実相を知るフィールドワークは都内4箇所のコースに分かれて実施されました。

Aコース しょうけい館、靖国神社、遊就館

Bコース 女達の戦争と平和資料館

Cコース 旧陸軍省・東京裁判法廷、青山練兵場、軍用停車場跡、
「出陣学徒壮行の碑」他

Dコース 立川飛行場跡、東大和日立航空機変電所、中島飛行機三鷹研究所、
調布飛行場掩体壕、浅川地下壕

※ 詳細は今後発行される「戦争遺跡保存全国ネットワーク・ニュース」及び「大会年報」をご参照下さい。

発表

○第一分科会 報告者 渡辺清(日吉台地下壕運営委員)

第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会8月18日(土)～20日(月)に一橋大学国立キャンパスで行われました。8月19日、二日目第一分科会「保存運動の現状と課題」として私は「日吉台戦争遺跡ガイド養成講座を受講して」と題して発表しました。日吉で生まれ、育ちましたが連合艦隊地下壕にしても、艦政本部地下壕にしても、単なる防空壕



第一分科会 渡辺 清(運営委員)

だと思っていました。地元 ということもあり、脳裏に浮かぶこともあり、強い思いを感じます。戦後62年、戦争体験者が少なくなる中、戦争の悲惨さ、平和の尊とさを後世にいかにかに伝えたらよいか、今まさに「ヒト」から「モノ」(戦争遺跡)に語らせることが求められています。そのような意味で戦争遺跡は貴重な遺産です。日吉台地下壕保存の会としても遺跡を大切に平和学習に活用していきたいと思ひます。私自身もサポート実習からガイドとして説明できるよう頑張りたいと思ひます。

○第二分科会

「神奈川県横浜市日吉台地下壕の調査と方法」の概要

千葉 毅 (慶應義塾大学大学院)

神奈川県横浜市日吉台には、連合艦隊司令部地下壕をはじめとして大小多くの地下壕が存在しています。今回の発表では、それらの内これまでに調査を行うことのできた三箇所についての調査結果と、調査を行うにあたっての留意点などをご報告させていただきました。以下にその概要を記します。

2002年には箕輪海軍省艦政本部地下壕の測量調査を行いました。その際に内部の仕上げ方法に場所により違いがあることや排気・排水・配電施設の構造を確認し記録することが出来ました。戦況が悪化するにつれて地下壕構築の資材が確保できなくなると、当初コンクリートで仕上げていた天井や床を素掘りのままで済ませてしまったり、被災した住宅から大谷石を運び地下壕構築のために使用したりすることもあったようです。

2003年に行った連合艦隊司令部地下壕の排土調査では、木煉瓦や碇子、木札、釘、鏝、ガラス管、さらに当時慶應義塾の備品に取り付けられていた金属製のタグなど、明らかに連合艦隊司令部地下壕で使用されたと考えられる遺物を回収することが出来ました。排土調査で得られたものなので出土状態や後世の混入についての検討も必要ですが、連合艦隊司令部地下壕で使用されていたものの一部を知ることができました。

2005年、2006年にはキャンパス周辺から発見された小規模な地下壕を測量調査しました。これらはその構造や規模から、民間の「防空壕」あるいは本土決戦を想定して構築された「戦術用地下壕」にあたるものと考えることが出来ます。このような民間の地下壕についての記録は少なく、今回調査した地下壕についてもその性格付けを行うのは容易ではありません。また小規模であるため注目されることも少なく、記録されずに破壊される場合が多いのが現状です。しかし、このような小規模地下壕は、本土決戦への意識や空襲に対する民間人の対応の状況を知るためには無視することの出来ない—連合艦隊司令部地下壕のような大規模地下壕とは異なった角度の一情報を持っていることは確かだと言えるでしょう。やはり可能な限り、記録保存することが必要と考えます。

当日は日吉台地下壕保存の会の皆様や白井厚先生には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。



千葉 毅氏 (慶應義塾大学大学院)

フィールドワーク

〇Cコースに参加して

川口重雄(田園調布学園教員・丸山眞男手帖の会)

気温35.9度。8月20日午前9時、フィールドワークCコース参加者30数名はJR市ヶ谷駅に集合、新宿平和委員会の長谷川順一さんの案内で、市谷木村町の防衛省に向かいました。1月9日に「省」になったばかりの正門の、表札の揮毫は久間章生氏。「しょうがない」前大臣です。

面会受付所脇で運転免許証かパスポート、つまり顔写真付きの証明書を見せろという入念なチェックの後、構内へ。情報保全隊のリストにまずは入ったのだと思いながらエスカレーターで儀仗広場に上がると、改めてそこが海拔33mの微高地・市ヶ谷台であることに気付かされます。市ヶ谷台は江戸城の西、甲州街道の入口を扼する戦略上の拠点として尾張徳川家の上



防衛省 正面

屋敷に、そして戊辰戦争の時には、まっ先に官軍が占拠して海拔の低い江戸城をにらみました。維新後に明治政府に献納(没収)された約27万ヘクタールの敷地には、1874年陸軍士官学校が設けられ、1941年からは大本営陸軍部など陸軍の中枢部が置かれました。

現在、市ヶ谷記念館として復元・公開されている士官学校1号館(1937年建設完成)には、戦後の極東国際軍事裁判の法廷となった講堂や、1970年三島由紀夫が乱入・割腹自殺した校長室(陸軍大臣室から戦後陸上自衛隊東部方面



防衛省前の会員

総監室)、旧便殿(陛下の休憩所)が残されています。

暑い日射しを避けて木立のかげに入ろうとすると、「そこに見える灯籠は地下壕のカモフラージュした通気孔です」という長谷川さんの声。今は立入ることのできなくなった市ヶ谷台の地下もまた戦争遺跡。過去も、そして現在も新宿が軍都であることを確認しながら、午後は日清戦争のために造られたJR総武線旧御所トンネル、陸軍輜重兵第一大隊兵舎(現・慶応大学病院脇)跡の境界石や「学徒出陣壮行の地」碑、青山練兵場(現・神宮外苑聖徳絵画館裏)跡の明治天皇葬場殿址などを見学しました。



○ Dコースの感想

蔵本悠介 中央大学法学部

立川駅の北にある多摩信用金庫前に集合する。この場所は立川飛行場の正門跡。通勤通学の人達が足早に通り過ぎていく。ここは完全に日常に埋没してしまっているように感じた。バスに乗り旧日立航空機変電所へ向かう。

変電所がある都立公園の周りにはマンションも建っていて、親子が公園で楽しそうに遊んでいる。そんな平和そのものであるような光景のすぐ横に、無数の弾痕を残し、戦争の惨禍を声高に主張する建物が鎮座している。異様な光景だった。変電所だけガラスケースで隔離され、触ることができないような、そんな違和感を感じた。

次は国際基督教大学 (ICU)。ここはかつて中島飛行機三鷹研究所だった。改装されて ICU の本館となっている建物はもともと研究所の「研究本館」だったが、今ではその過去を忘れてしまったかのように、のんびりとしたキャンパスの一部になっていた。

三つ目は武蔵野の森公園にある掩体壕。綺麗に整備された公園の中に、鉄骨の飛び出した粗いコンクリートをそのままに、フェンスで囲まれた掩体壕が弱々しく横たわっていた。最後は浅川地下壕だった。普通の民家の裏庭から地下壕に入る。中は予想していたより遙かに広く、空気もかなり冷たい、そして当たり前だが光はなかった。完全に外界から遮断されて時間が止まりどこまでも続く地下壕と暗闇が、今にも再び動き出しそうで少し恐ろしかった。

今回見学した場所はどこも身近な場所であった。やはり戦争はどこか遠い国や遠い昔の話ではないと実感すると同時に、身近にあるだけにその意味を意識しなければ戦争遺跡も日常の一部となって価値を失ってしまうと感じた。



○ 戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会に参加して

石橋 星志

今年は東京大会。初参加を楽しみにしていた所、実行委員会に入ることになり、初日の司会、2日目の分科会の発表、プレイベントの靖国ガイドにと駆け回りました。

報告した特別分科会では「東京の戦争遺跡」をテーマに、浅川地下壕、調布飛行場>の掩体壕発掘調査、軍医学校跡地の人骨問題、武蔵野の戦跡を米軍偵察写真から確認する試みなどの報告もありました。

武蔵野の米軍偵察写真の報告は、日吉についても同じものがあれば、日吉の空襲の実態解明や、米軍が地下壕や日吉のキャンパスをどう見ていたかが分かるという面でも、今後の参考にしたい内容だと感じました。

日吉の会に入り、1年足らずでの参加でしたが、各地でも状況に合わせ工夫をしながら、地道な活動の積み重ねをしていることを改めて感じ、意見交換の活気にも刺激>を受けました。

私はガイドの経験を積みながら、来年の大会を迎えられればと思っています。

3. 日吉・登戸・京都などの要望について 日吉は慶応大学との関係で調整をしている。登戸も明治大学と学習会を持って資料展示室の設置案を出したりしている。要は所有者と自治体との話し合いが必要である。自治体での指定を踏まえて国、県ということになる。所有者や自治体が動かないと国としては動けない。

4. 札幌月寒の「北の大本営」取り壊しについて。

5. 特殊地下壕取り壊しについて (ニュース参照)

丁寧な対応をされ、一時間過ぎても打ち切る態度ではなかったが、今年度中に報告書を出すのでそれを見て欲しい。各所からの要望については国が出て、指定せよとか、保存せよとか言える立場ではないというスタンスでした。

○ 全国の団体・個人に地道な活動の表彰が行われる。

一昨年本会が受賞した神奈川新聞地域活動賞に続いて全国各地の戦争遺跡保存団体・個人が地道な活動を認められ、表彰を受けたという報せが相次いでいます。「戦争遺跡」という「負の遺産」に関わる地味な活動が戦後62年たってようやく社会的認知を受けた思いがします。これらの報せを励みに今後も戦争と平和の意味を問い続けていきたいものです。

★館山の「戦跡文化財保存活用フォーラム」内閣官房長官賞を受賞

(18年度あしたのまち・くらしづくりフォーラム) (2006. 12. 4)

東京代々木国立オリンピック記念青少年センターにおいて

房総里見氏の城跡や館山の戦争遺跡を総合的に結びつけ、地域活性化、安房のPR、行楽客誘致、平和教育に活かした活動が認められ、受賞したものです。一昨年は全国ネットの大会が館山で行われ、本会と交流を行いました。両会をはじめとする東京湾をめぐる戦争遺跡保存団体のネットワークがさらに広がることを期待されます。

★松代大本営の保存をすすめる会が「文化財保存全国協議会」から文化財の保護運動の先駆者和島誠一を記念する「和島誠一賞」を受賞しました。戦争遺跡保存団体がこの賞を受賞するのは初めてのことです。(2007. 6. 17)

★全国ネット運営委員の菊池実さんが長野県考古学会の「藤森栄一賞」を受賞しました。自らの戦争体験を踏まえ、心から平和を愛した考古学者藤森栄一を記念するこの賞を戦跡考古学を積極的にすすめる菊池さんに贈られることは、考古学の分野で戦争遺跡の研究活動が積極的に評価されたことで大変意義深いことです。(2007. 6. 17)

お知らせ

2007年度「港北区ふるさとサポ-ト事業」

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 10月開講

日吉台地下壕保存の会は、2005、2006年度に続き、今年も港北区のふるさとサポ-ト事業に応募し、「ピースロードふるさと港北 PART3」として下記の事業を企画しました。

1、ガイドブック「戦争遺跡を歩く 日吉」を増刷 地下壕見学の児童・生徒、配布希望の学校に無料配布する。

2、2005・2006年度のガイド養成講座受講者を対象に毎月の定例見学会などでガイド実習を行う。

- 3、「日吉の戦争遺跡ガイド養成講座」を開催する。
- 4、ガイド・展示に使える写真・映像資料の作成
- 5、活動の成果を「第15回川崎・横浜平和のための戦争展」で展示・発表する。

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 ～戦争遺跡を歩いて平和の語り部になろう～

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 10月6日(土) | 「日吉の戦争遺跡の特徴」「戦争遺跡ガイドのすすめ」
10:00～14:30 「日吉の戦争遺跡を歩く フィールドワーク①」 昼食持参 |
| 第2回 | 10月20日(土) | 「近代日本の戦争を問い直す」
10:00～14:30 「フィールドワーク②」 昼食持参 |
| 第3回 | 11月10日(土) | 「フィールドワーク③」
13:00～16:30 |
| 第4回 | 12月1日(土) | 「フィールドワーク④」
13:00～16:30 |
| 第5回 | 1月19日(土) | まとめ 「日吉の戦争遺跡が伝えるものは」
13:00～16:30 |

定員： 30名(高校生以上) 参加費： 2000円(全5回分)

会場： 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎会議室

申込先： ハガキ又はFAXで、①住所 ②氏名 ③連絡先(電話番号・FAX)をご記入の上、下記「ガイド養成講座」係へお申込下さい。

〆切 9月29日(土)

横浜市港北区下田町2-1-33 喜田方 「ガイド養成講座係」

TEL&FAX 045-562-0443

報告

○「小さなまちの小さな平和展」成功でした

東横線大倉山駅ちかくの小さなギャラリーで、7月9日から14日まで港北区で活動するいくつかのグループがあつまり、ささやかな平和展が開かれました。この「ギャラリーかれん」は、普段は障害を持つ人たちの手作り品や絵画などを展示し、販売もしているところです。そこの小さな壁面と机を利用して、憲法・自然環境・原子力発電所そして戦跡などのコーナーができました。通りすがりの人が、ひょいと気軽に入って、一回りして会釈して出て行く、という場面に出会いました。そういう気楽な戦跡との出会いも、きっと無駄ではないと思いました。



小さなまちの小さな平和展

(運営委員 亀岡敦子)

○「2007年度平和のための戦争展 in よこはま」 6000人が来場



平和のための戦争展 in よこはま

1945年5月29日は、8000人の命が奪われ、当時の市民の半数の31万人が被災した横浜大空襲の日です。この日をはさんで、5月21日から7月1日まで1月余の期間、今年で12回目の「平和のための戦争展 in よこはま」を多くの市内平和団体とともに開催しました。

5月21日から6月29日まで、今年初めてとりくんだ9区役所での横浜大空襲巡回展は、市民が身近に参加でき、大きな反響を呼びました。

5月29日には、開港記念会館で小山内美江子実行委員長と小児科医の毛利子来さんの講演、および映画「戦ふ少国民」の上映、6月29日から7月

1日までは、かながわ県民センターで約500点の資料展示、山崎洋子さんや笹本妙子さん、華僑総会の方々による外国人墓地から戦争と平和を考えるトーク、中学生による横浜大空襲や学童疎開の朗読劇、激戦地の硫黄島で戦争体験された秋草鶴次さんの講演など開催しました。

横浜市やマスコミ各社の後援を得て、大きく報道され、全体で6000人を超える市民が訪れました。

また、小学校が総合的学習に位置づけて見学し、中学校演劇部が協力するなど平和教育にも役立てられました。寄せられた多くの感想からも、憲法9条を改悪し、戦争のできる国にしようとする動きの中で、平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝え、再び戦争を繰り返さず9条を守る世論をひろげる力になったといえます。自治会・連合町内会から展示の協力依頼や来場者から、これからも続けてほしい、実行委員会に協力したい、常設展示できる平和博物館・資料館が欲しいなどの声は従来にまして強く寄せられました。市民と共につくる戦争展を一層発展させ、常設展示のできる平和博物館を是非実現させたいものです。来年は5月30日から6月1日までかながわ県民センターで開催するとともに、区役所での巡回展をさらに増やして開催できればと考えています。(吉沢てい子)

お知らせ

- 第15回川崎・横浜平和のための戦争展 開催します。12月15・16日
川崎市平和館 テーマ「戦争遺跡がいま問いかけるもの」(展示15・16)(シンポジウム16) 詳細は次号でお知らせします。
- 年会費納入のお礼
2007年度の会費納入、有難うございました。事務的なミスが何件もあり、ご迷惑おかけしましたこと、お詫び申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。
- 『アジア太平洋戦争における慶應義塾関係戦没者名簿』(白井 厚編 慶應義塾福澤研究センター発行 2007年8月15日)が刊行されました。戦没者2224名の詳細な名簿です。希望者は慶應義塾大学出版会03-3451-3584に申し込んでください。頒価・郵送料共千円

●活動の記録 2007年 6月～9月

- 6/23 運営委員会 会報83号発送 (慶応高校物理教室)
 6/29～7/1 平和のための戦争展 in よこはま (かながわ県民ホールセンター)
 7/4 運営委員会 (慶応高校物理教室)
 7/7 定例見学会 49名
 7/9～14 小さなまちの小さな平和展 (ギャラリーかれん) 展示とミニトーク
 7/18 地下壕見学会 日吉台小学校6年生 109人
 7/21 登戸研究所見学 参加者26名 旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会総会に参加 (中野島センター) 運営委員
 7/28 定例見学会 68名
 7/31 「博物館」「平和資料館」構想の検討 (慶応高校物理教室) 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会 (かながわ県民ホールセンター)
 8/4 定例見学会 56名
 8/10 地下壕見学会 戸塚塾 45名
 8/18・19・20 第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会 (一橋大学 国立キャンパス) 20日はフィールドワーク
 8/29 地下壕見学会 日吉ロータリークラブ 20名
 8/31 地下壕見学会 新現役ネット 47名
 9/1 平和のための戦争展川崎・横浜実行委員会 (法政第二高校視聴覚室)
 2007年度は川崎市平和館で12月15、16日開催に決定
 9/4 地下壕見学会 新現役ネット 37名
 9/5 地下壕見学会 若葉台九条の会 22名



登戸研究所見学会

予 定

- 9/14 運営委員会 会報84号発送

《 地下壕見学会の予定 》

定例 9/22・9/29・10/27・11/24・12/22・1/26
 見学会ガイドブック参加のご連絡は見学会窓口まで。お待ちしております。

定例見学会は毎月第4土曜日に行っています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。(見学申込先 TEL&FAX 045-562-0443 喜田)

連絡先 (会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758
 (見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443
 ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/> (新アドレス)

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会